

朝鮮における実利重視の経済管理の改善

朝鮮社会科学者協会 研究員・修士 張進宇

現在、わが共和国の経済は、苦しい難局¹に勝ち進んで自己発展の新たな段階に踏み出した。

近代的な工場が新しく建てられ、既存の工場は改造・現代化され新たな姿へと変身しているし、都市と農村、漁村の至る所から飛躍の息吹が聞こえている。

現在の共和国の現実、新世紀のわが国における現実的な要求を考慮し、社会主義経済管理を実利にあわせて革命的に改善した措置を抜きにしては考えられない。

本稿では、変化発展する現実的な要求に合わせて新しく提示された、実利重視の経済管理改善政策に関して、そしてその実行状況に関して重点的に述べたいと思う。

1. 経済管理改善政策の提示

わが党と共和国政府は、新世紀に入って社会主義経済発展の合法則性と変化した環境と条件に対する分析に基づき、社会主義経済管理を改善するための政策を提示した。

まず、新たに提示された政策のなかで重要なのは、変化する環境と条件に対応して社会主義経済を管理するにあたって、どのような姿勢と立場をとるべきかという問題を明らかにしたことである。

それはまず第1点として、社会主義経済管理問題をどこまでも朝鮮式で解決すべきだという姿勢と立場をとることであり、第2点として、変化する環境と条件、社会発展の要求に合わせて、経済管理を革命的に改善して、完成して行くという姿勢と立場をとることである。

これには、経済管理方式の問題を外国の経験と方式をそのまま受け入れて解決するのではなく、自国の具体的な実情と要求を反映して解決するという、主体的な姿勢と立場、また、変化発展する現実を考慮しない旧態依然な態度を排撃して経済管理方式を新たな環境と条件、社会発展の要求に合って革命的に改善・完成して行くという、創造的な姿勢と立場が反映されている。

新しく提示された政策で重要なのは、社会主義経済管理の改善・完成の基本方向を次のように明らかにしたことにある。

政策では社会主義原則を固く守りながら、最も大きな実利が得られる経済管理方法を解決することが、社会主義経

済管理の改善・完成における核心的な事項であることを新たに明らかにした。

経済管理において社会主義原則を守ることは、人民大衆を経済管理の実践的な主人とさせること、換言すれば、人民大衆が経済管理において主人としての権利を実質的に行使し、主人としての責任と役割を果たすようにすることである。

社会主義経済管理の改善・完成の基本方向において指摘された経済実利は、社会の人的、物的資源を効果的に利用して、国の富強発展と人民の福祉増進に与える実質的な利得を意味する。

人々の全ての経済活動は、彼らの経済的要求と利害関係を実現するための目的意識的な活動である。

経済実利は、人々の経済的要求と利益を実現するための経済活動の結果、現実的に得られた利益、すなわち実際的な利得である。

結局、このような見地からみると、人々の経済活動は経済実利保障のための活動であると言える。

人々の経済活動は社会歴史的に形成された一定の経済関係の中で行われる。

生産手段に対する私的所有に基づく社会経済制度の下でも、生産活動をはじめとする経済活動の結果として経済的利得が得られるが、それはあくまでも個別的な生産手段所有者が占有し、一般生産者、勤労人民大衆の福祉増進とは別である。

しかしながら、生産手段に対する社会的所有に基づいている社会主義社会では、経済の主人が、ある個人でなく、国を単位にして一つに結合された社会的集団、人民大衆である。

これらのことから、社会主義社会では、全ての経済活動が人民大衆の経済的要求と利益から出発し、それを実現するために組織・展開される。

社会主義社会における人民大衆の経済的要求と利害関係は、集団主義に基づいているし、これは国家的要求と一致する。

社会主義社会において人民大衆が持つ共同の経済的要求と利害関係は、国の富強な発展と、彼ら自身の福祉を体系

¹【訳者注】ここで言われている「難局」とは、1990年初頭の旧ソ連・東欧の社会主義市場の崩壊から始まり、1998年の「苦難の行軍」終了まで続いた経済的難局のことである。

的に増進させることにある。

社会主義社会では、個別的な部門、単位²だけでなく、全社会的範囲に人的および物的資源を合理的に分配し、効果的に利用できる社会経済的条件が用意されている。

社会主義経済制度が開いた道に従って、社会の人的および物的資源を効果的に利用してこそ、生産をいち早く発展させ、人民大衆の経済的要求と利害関係を円満に実現して行ける。

したがって、社会主義社会において経済実利は、経済活動過程において社会の人的および物的資源を効果的に利用し、国の富強発展と人民の福祉増進に実際に貢献できるように創造される経済的利得となる。

政策では、国家や個別の部門、単位において生産と建設、企業管理運営を最も合理的かつ経済的に行い、国と人民に実質的な利益を与えることを社会主義経済管理の基本原則の一つとして新たに定立し、その実現にあたって提起される基本問題を提示した。

基本問題は、経済管理において国家の計画的経済管理の原則を正しく具現するうえで提起される問題、国家の中央集権的、統一的指導を徹底的に保障しながら、下部単位の創意性を高く発揮させる原則を正しく具現するうえで提起される問題や、科学技術を速く発展させ、社会的労働³を合理的に組織し、勤労者の中で社会主義労働生活気風を確立する問題などである。

国家の計画的経済管理原則を正しく具現するうえで提起されている問題とは、以前に国家が全ての工場、企業所の生産計画を現物指標別に細部化してかみ合わせていたのを、経済規模が非常に大きくなった反面、対外経済関係が不利になっている環境と条件にどのように対応するのかという問題である。国家の中央集権的、統一的指導を保障しながら、下部単位の創意性を高く発揮させる原則を正しく具現するにあたって提起される問題とは、国家の中央集権的、統一的指導を保障する原則で国家経済管理の機構体系を整備しつつ、変化する環境と条件に合わせて下部単位の責任と権限を調節する問題である。科学技術を速やかに発展させる問題は、経済建設が科学技術の発展を推進し、科学技術の発展が経済建設に迅速に導入されるよう、全般的な経済管理を改善する問題である。社会的労働を合理的に組織し、勤労者の中で社会主義労働生活気風を確立する問題は、部門別経済構造、生産構造の合理的な改編と生産の

専門化・協同化問題、そして社会主義分配原則⁴を正確に実行する問題などである。

総合的に見れば、変化した環境と条件、発展する現実の要求を正確に反映して、社会主義原則を守りながら、最も大きな実利が得られる細部的な経済管理方式の問題、経済管理体系と経済管理方法問題を解決することである。

それでは、わが党と共和国政府によって経済管理改善・完成の方向的な政策が提示された後、経済管理方式においてどのような改善がなされたのか。

2. 経済管理改善のさまざまな側面

新世紀の社会主義経済管理を改善・完成するための政策的方向に準じて、わが国では社会主義経済管理を改善するための努力が力強く展開され、経済管理全般において多くの変化がもたらされた。

何よりもまず、最大の経済的実利を保障する方向で人民経済計画化事業が改善された。

ここで重要なのは、現実性と実利に準じて、要となる部門に力量を集中させる原則に基づき、計画指標を新しく分担する計画化事業体系と方法が樹立された。

計画の一元化、細部化は、わが国の人民経済計画樹立の伝統的な体系と方法として、過去において、人民経済の計画的かつ均衡ある発展を保障するうえで重要な役割を果たした。しかしながら、経済建設の環境と条件は変わった。社会主義市場の崩壊、アメリカ帝国主義をはじめとする帝国主義連合勢力の悪辣な経済封鎖策動などは、私達の過去の方式すなわち、工場、企業所の生産計画を現物指標別に全てをかみ合わせて、輸入原料や資材を国家的に保障していた従来の方式を変更させねばならないようにした。もし、このように変化した環境と条件を把握できず、過去の経験をそのまま受け継いで人民経済全ての部門、全部の生産活動を全て中央で計画化するという立場を取るならば、それは非現実的なもので、生産と建設に莫大な否定的結果をもたらしかねない。このことから、計画指標分担体系が新たに提示された。

新しく提示された計画指標分担体系では、経済建設において戦略的意義を持つ指標、国家的に必ず解決せねばならぬ重要な指標は、中央で計画化し、その他の指標と細部規格指標は、該当機関、企業所において計画化するようにした。このように、計画化事業を合理的に分担する新しい体

²【訳者注】『朝鮮語大辞典』において「単位」とは、「機関や組織体等における各部門別に分けられた一つ一つの基本的な部署」と表現されている。

³【訳者注】『朝鮮語大辞典』において、「社会的労働」とは、「社会的範囲で互いに連携し、依存している社会的性格を伴う労働」と定義されている。

⁴【訳者注】各自が能力に応じて働き、労働に応じて分配を受けるという原則

系と方法は、伝統的な計画の一元化体系と細部化方法を今日の現実的条件にあうように適応させたもので、現時期経済発展の正しい均衡を保障し、経済的効果性を高めるにあたって重要な役割を果たしている。

次に国家の中央集権的、統一的指導が固く保障され、下部単位の創意性が非常に高まった。

まず、全ての経済事業が内閣に集中され、内閣の統一的指揮によって処理されていく秩序が立てられたのである。

社会主義社会は、生産手段に対する社会主義的所有に基づく社会として、個別の経済部門や地域の範囲、個別の生産経営単位の範囲のみならず、全国的範囲でも指導管理を実現して、全社会的範囲において最大限の実利を保障できる利点を持つ。

しかしながら、それは内閣が国の経済司令部として省、中央機関と道を統括し、省、中央機関と道が傘下機関・企業所を動かす整然とした機構体系が樹立されてはじめて、遺憾なく発揮されるようになる。

新世紀の要求にあった国家经济管理機構体系と事業体系の整備によって、工場、企業所から提起される全ての問題を、省、中央機関と道を経て内閣に集中させ、内閣の統一的な指導の下で処理して行く規律と秩序が樹立されたことから、内閣が実質的な事業条件と活動可能性を持って、党と国家の指導の下で人民経済の全部門、地域、単位の活動を統括し、指導管理して行けるようになり、社会主義経済の優越性を高く発揚させて行けるようになった。

内閣の統一的指導が強化されて行く一方で、省と道、傘下機関、企業所が自立性と独自性を持って指導管理活動を能動的にかつ、創発的に、責任的に行っていくようになった。

新しい環境と条件の下で、社会主義経済強国建設闘争が行われている現在、国家経済指導管理組織が遂行せねばならぬ指導管理業務は、量的にかつてなく膨大になり、内容上きわめて複雑でかつ多様になっている。このような条件で統一性を強調しながら、全部門、全地域、全単位の生産経営活動を細かいところまで中央において組織する体系にこだわると、中間級と下部末端の经济管理組織が積極的に指導管理活動を行えない。

現在、経済部門と地域、経済単位に高い比重の責任と権限が与えられ、企業活動の一定部分を経営単位が独自の計画し、生産して処理できるようになったので、経済部門と地域、経済単位の創意性は非常に強化されているし、生

産的昂揚が起きている。

次に、実利と革新の視点において经济管理が行われることによって、先端科学技術に基づいた人民経済の近代化、情報化が積極推進されている。

新世紀に入り经济管理においては、人民経済の技術改善と近代化を実現する方向と方法を正しく設定することが重要な問題として提起された。

それは人民経済の技術改善と近代化が、新世紀強盛大国建設の主要課題として提起されたことから、この課題を世界経済の発展の趨勢とわが国の経済建設状況を考慮して遂行しなければならないという事情と関連している。

実利を重視しながら、革命的に経済を管理するにあたって提起される政策的要求にあわせて、わが国では工場、企業所らの全般的実態が実利を基準に検討されて、これに基づいて完全に廃棄できる設備は、大胆に廃棄して新たに現代的に建設することと共に、部分的改造と全面的改造で工業全般を最先端水準で近代化、情報化することに対する方向が提示された。

現在の困難な状況のなか、多くの計画を一気に推進できない実情から、現存する経済の土台を活かして、その生産潜在力を最大限に効果的に利用しながら、重要かつ切実な部門と計画、その中でも比較的少ない資金で成果を出せる計画から改善する工業の技術改善実現方法が提示された。

現在、実利と革新の視点で合理的に立てられた工業の技術改善実現方向と方法によって、技術改善事業がうまく推進され、個別的企業所の重要生産工程が近代的技術で装備され、主要経済部門に最先端水準の工場が新たに建てられて工業全般を異彩に飾り、この過程を通して経営管理の科学化水準が向上している。同時に、最先端水準の人民経済の近代化・情報化過程は前例のない科学技術発展を推進しており、科学技術の成果が急速に経済建設と経営活動に普及されるようにしている。

次に、社会主義社会の本質にあうように、社会的労働を合理的に組織し、社会主義労働生活気風を確立する問題が解決されている。

経済部門構造を再整備し、生産の専門化と協同化を主要な課題の一つとして提起した条件において、労力管理と労働組織⁵を正しく行い、社会主義労働生活気風を確立することは社会的労働の浪費をなくし、高い経済実利を保障するための必須的要求であった。

⁵【訳者注】「組織」とは、動詞でも使われ、その場合の意味は、「準備をする」とか「事業を遂行する」という意味に使われる。「労働組織」もそのような意味で使われている言葉であり、労働組合などの組織体を意味するのではなく、「労働者の配置を行う」といった意味である。

新世紀経済建設の要求に合わせて、労力管理と労働組織を改善するための努力の結果、現在人民経済の全部門・全単位において労力管理と労働組織のための情報処理技術が開発導入され、余裕労力を動員するための社会的労働組織が活発に展開されている。

また、労働定量⁶制定と支出した労働に対する評価、高級技能工に対する優待保障と技能級数を高めるための条件保障、労働条件と労働環境の改善などが新たな経済的視点にて改善されている。

経済に対する国家の計画的な管理原則を堅持することにもとづいて、価格槓杆⁷（経済管理のための価格）を正しく利用する問題が強調されている。

価格槓杆の合理的な利用は原価と収益性を計って、経済活動で実利を最大限保障できるように刺激し、生産物の需要と供給をバランスよくかみあわせて、経済のスムーズな発展を図る。

そのため、現時期、生産物の価格を社会的必要労働の支出に基づきながらも、製品の用途と人民経済的意義、需要と供給間の関係などを十分に考慮して制定する際に提起される問題が強調されているし、価格制定部門において価格を商品の源泉と需要、原料と資材等の生産要素の市価が変動するにつれて科学的に調節し、価格が経済の計画的で速い発展に正しく利用されるようにしている。

次に、経済指導幹部たちが原則的な思想観点と革新的な

思考方式を持って、经济管理を革命的に改善して行くようにしている。

经济管理改善の基本方向と課題が明示されたとしても、经济管理を直接引き受けて遂行する幹部達の事業態度と能力がついて行けないと、なんの成果も期待できない。経済部門、経済単位に高い責任と権限が与えられた条件で、経済部門、経済単位における成果の可否は、全面的に経済指導幹部の働き次第である。

こういうことから、経済指導幹部が正しい思想観点と思考方式を持って働いて行くようにしており、特に現時期、経済指導幹部達が科学的な経営戦略、企業戦略を持って事業に主導性、創意性、能動性を発揮するようにしている。

上記のように、新世紀のわが国における经济管理は、一般的部門にまたがって新たな様相を呈しており、経済建設における多くの成果をもたらしている。

しかし、これは始まりに過ぎない。私達の経済建設の路上には依然として多くの隘路と難関が立ちはだかつており、经济管理部門において解決しなければならない問題もたくさんある。我々は经济管理改善において成し遂げられた成果を強固にし、新たに提起される经济管理問題を着実に解決して行きながら、必ずわが国の現実に根付いて、変化する環境と条件に合う、実利的でかつ革命的な经济管理体系と方法を完成させて行くであろう。

[朝鮮語原稿をERINA翻訳]

⁶【訳者注】『朝鮮語大辞典』において「労働定量」とは、「個別の労働者又は労働者集団の一定の作業条件及び生産条件において作業を遂行し、又は製品を生産することにおいて必要な労働力の支出量を規定した基準。労働力の支出形式、種類、役割等により、さまざまに区分される。」と定義されている。

⁷【訳者注】「槓杆」とは「テコ」のこと。